

こんなときどうする？ 運動器の作業療法ナビ

田 中 一 彦

(松阪中央総合病院, 作業療法士)



運動器疾患の作業療法介入, うまくできていますか? 評価や治療手技は難しくないですか? 苦手意識はないですか?

本増刊号は, 臨床経験3年目までのOTを主な読者と想定し, 運動器の作業療法を行うための基礎知識と技術, 先輩OTの実践能力が学べるよう企画されたものです。

執筆者であり編集代表者の大瀧誠氏は, 長年身体障害領域の作業療法実践と教育に取り組まれており, 今回の企画も臨床現場の若手OTの現状や不安・悩みの声をくみ取り, この分野で作業療法を実践するための道標をまとめられました。

また大瀧氏は, 本増刊号で学ぶことで“読者が自ら行動できるようになり, 臨床力を向上できる内容を目指した”と述べられており, それに応えるべく各執筆者が自身の経験に基づき, 押さえておくべき知識・技術のポイント, 心構え等をOT目線で伝えられ, わかりやすく読みやすい内容となっています。

本増刊号は, 5章より構成されています。第1章は, 「運動器の解剖と生理」で, 運動器作業療法の臨床実践の概論と関節構造, 筋・筋力, 感覚・知覚, 運動学習の神経基盤等の基礎知識の解説。第2

章は, 「運動器に現れやすい症状と改善方法」で, 疼痛, 関節拘縮, 関節, 筋力・持久力, 感覚・知覚, 運動学習等の介入ポイントの解説, 廃用症候群, 栄養管理等の実践。第3章は, 「運動器の作業療法実践」で, 臨床場面で遭遇することの多い16疾患を例に実践報告がなされ, 先輩OTの思考過程の解説。第4章は, 「地域・在宅支援」で, 外来対応・自主訓練プログラム指導, 介護予防を通し行う間接支援方法や, 自動車運転支援の紹介。第5章は, 「合併症としての運動器の問題」で, 内部疾患, パーキンソン病, 認知症ケア, 頭部外傷, 脳性麻痺等を例に多疾患併存者に対する問題提起があり, 多くの示唆に富む内容となっています。

私自身, 身体障害領域で30数年臨床活動を続けていますが, 本増刊号を読んで, 私が学生時代～新人時代に学んだ知識が現在も不変であったことに安心した反面, 30年間でより詳細になっている項目もあり, 定期的に自身の知識をアップデートしていく必要性を感じました。また臨床家による実践的なアドバイスが詳しく書かれている点は, 当時このような文献があったらよかったのにと感じるとともに, このように説明をすれば

後進が理解しやすくなるのだと参考になりました。特記すべきは, 第4章, 5章で, さまざまな領域のOTに共通する内容でもあるので, 議論を深めていくべき内容だと感じました。最近では, 精神疾患患者や障害児・者の高齢化問題, 訪問リハビリ領域では, トランスディシプリナリーモデルによる理学療法的介入等, OTが運動器疾患とかかわる頻度が増えてきています。直近の問題としては, COVID-19による臨床実習の中止, 期間短縮, 対象者との直接介入機会の減少で, 就職後も, 心身機能の評価, 治療ができないOTが増大している点が挙げられます。

これらの問題を解決するために本増刊号は, 運動器疾患の解剖・生理, 臨床症状とその対処法がまとめられており, さらに多くの疾患を通し作業療法の実践が学べる内容となっています。

臨床経験の浅いOTだけを読者対象とする内容ではありません。中堅・ベテランのOT等, 臨床経験年数や専門分野を問わず, ぜひ一読してください。新たな発見, 知識・技術・資質の向上につながることでしょう。

B5判 240頁 4,000円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357